

日六十月一



定価 一月五拾銭 三月一拾五銭 半年二拾五銭 一年四拾五銭
廣告料 五號十二字 第一行 五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐新聞社 印刷所 常磐新聞社
電話 六二〇〇
印刷所 常磐新聞社 印刷所 常磐新聞社

無功德の宗教

真繼 雲山

(一)

梁の武帝、全盛の頃、達磨西來し、帝これを宮中に招じた。そこで有名な碧巖録第一則の問答が始まつた。帝問ふて曰く「帝即位以來寺を造り資を捨て僧を度すること擧げて數ふべからず如何の功德がある」得々の状態見すべしである。

達磨答へて曰く「功德なし」鎧袖一觸、勝負の數は既に定まつた、帝屈せず重ねて問ふ「何を以て功德なきや」そこで達磨は諄々乎として教へた「これたゞ人天の小果にして有漏の因のみ有りといへども實にはあらず」

謂ふ心は成るほど功德が無いとは言はぬ、有りも仕やうが畢竟それは人間界や天人界の話で折角功德や樂しみがあるやうに見えても壽命がぎりの話、この世だけのゴタ、原因たるに過ぎないものである、左様な空華は有りといふとも實體ではなし。

しかし帝にはその真意が分らなかつた、そこで「如何なるか是れ眞の功德」と逆襲した、さすがの達磨もこれで回むだらうと睨み据えたところが達磨は悠々たり、閑々たり淨智圓妙にして體おのづから空寂なり、是くの如きの功德何を以てか求めん」

達磨は第一義諦に住し第一義諦を示してゐるのであるが、生憎く武帝は電信不通で、少々分らなくなつた

踵の皮の厚いのは厭なものです、輕石や朴炭でこすつてもなは後からかたい層になるときは林檎を一切輪切りにし入浴の時にこれですりますとやはらかに子供の足のやうになります

ノート

二明日の献立
【朝】かゆー小豆かゆ 餅入り 白砂糖
【晝】つくも煮ー酢魚 玉ねぎ 卵 コシヨウ
【晚】色飯ー茶めし すまし もみのり

達磨答へて曰く「廓然無聖」カラリとしたものでござる無聖といふのであるから凡聖共になく塵一点を留めなさい、帝曰く「朕に對するも

のは誰ぞ」無いといふなら貴様は何者ぢや、達磨曰く「不識」存じませんよ、有相の第二義に固着するお前さんでは問題にならぬと歸つてしまつた、武帝は嗚然として残り達磨は飄然として去り茲に兩雄の會見は幕を閉じて仕舞つたのであつた



常磐歌壇

梧桐 蔭子

暮れそめし川べはいとど静もれり 茜さす遠の家影くらしも
月影を仰ぎつ歸る町角に支那そばの笛忙しう聞きぬ
石垣の川の瀬音はひびかひて夕暗の中に波白々し
ぬくもれる朝床出で、冷え徹る縁に立ちつゝ初霜を見る

海老澤 青楓

白き月山の端はなれ風寒し 秋も終りて夕飯の後に
月光は鏡の如く輝きて静かにふけし我家照らせり

貸切の...

御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ (マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

毎度御ひいき

有難ふ御座ります

うなぎの御用命は

うなぎ 奴

平町田町(電話二二三番)

ホテル御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

内科・小兒科・花柳病科

藤沼 醫院

入院 需應

平町紺屋町 電話五〇七番

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

磐城 共濟病院 案内

院長 醫學博士 石山 謙 郎

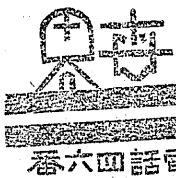
自宅(電話二二四番)

内 科 醫學博士 石山 謙 郎
小 兒 科 醫學博士 石山 謙 郎
外科 醫學博士 佐久間 重 次
喉科 醫學博士 桂 馬 重 郎
皮膚科 醫學士 有 馬 重 郎
産婦人科 醫學士 五十嵐 雄 二
X光線科 醫學士 佐久間 謙 郎
衛生試驗所 醫學士 石山 謙 郎
技師 石山 謙 郎
技師 石山 謙 郎
技師 石山 謙 郎
藥 局 技師 石山 謙 郎
診察時刻 午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

磐城 共濟會

電話 六四一 番

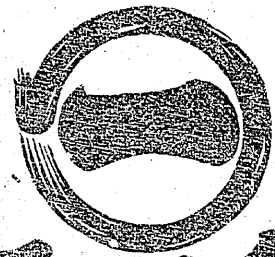
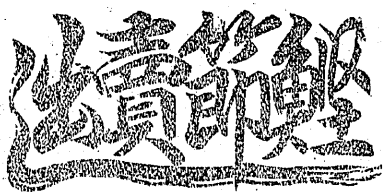
食事 喫茶



年始 年末

御贈答品

磐城名産



魚問屋

最優最 日大最 本生本 命代平 代理店 榮盛 番三一電 目丁四平

月曜是非

町議の無誠意

新川の改修工事が失業者救済を主眼として開始され...

に其の大半を了せる今日、未だ一回の踏査も為さず、其の成行きを等閑視去り、...

將來大漁港に

中作折戸に巨つて

けふ早くも修築事務所

既報石城郡江名町字中ノ作及び折戸兩部落の漁港修築...

小名濱の

町長選舉

明十七日に

既報石城郡小名濱町に於ける町長選舉並に小學校増築...

あるとの事だ、再び町議になりたい氣持に無理はないが、斯かる平町の大事業...

美校出身訓導 過般退職された平第一小學校訓導山口重幸氏の後任は福島...

橋本校長出張 磐城中學校長橋本文壽氏は来る...

ドーキーを観て

操人形生

新春劈頭平館に於ては、オール及バートのドーキー物を二週間に亘つて上映し...

二十七、二十八の兩日保原中學校に於て開れる縣下中等學校長會議に出席の爲め

食量持參で

泊り込みの講習

錦村の鮫南農民學校に

石城郡鮫南中農民學校では郡農會の後援を得て來月一日より五日間同校に第一...

平青訓の夜學

今晚から開始さる

より第一小學校に於て補習教育の夜學を開始するが期間は二月末日迄科目及び教師は左の如く決定した

- △科目 修身 公民 算術 地歴 理科 商業 △教師 曾我主事 坂内 大和田 井上 鈴木 丹野各訓導

校長指導の下に

算術教授の新研究

平第二小學校にては本日より一週間毎日放課後二時間宛校長津田達造氏指導の下に算術教授の研究會を開く

町村分賦徴收

石城郡町村長會の昭和八年度各町村分賦徴收額左記の如く決定した

- (泉)六一、五三(渡邊)一五、〇四(植田)四四、八二(山田)五二、五七(錦)六一、〇六(勿來)六八、〇〇(上遠野)五三、〇五(入遠野)四三、九六(川部)四九、五三(田人)四二、四七(平)二三、六九(飯野)五八、三二(夏井)五一、三二(高久)四七、六〇(豊間)四四、八九(江名)五四、七一(鹿島)四七、八九(小名濱)六九、七四(玉川)五五、六四(磐崎)六三、一〇(湯本)六八、二四(内郷)八二、五七(好間)六二、七四(赤)

上田科醫院

平町 南町 電話二二九番

平町人事

- △研町一三 佐々木勝平氏 長女芳恵 △回 死 △二丁目二 腰塚小彌吉 (八一) △田町五鎌田ハナ(三二) △立町一〇一 佐藤ナツ (六七)

是はドーキー物に撮り馴れて居る外國俳優だけにあの流暢な口調、そぶり等に至つても餘程うさくやつて居る、それに從來餘り撮影を見なかつた獅子、豹、等と...

平商卒業生の就職に

校長の熱心な斡旋が

効を奏して夫々決定

平商業學校校長矢野泰次郎氏は来る三月校門を巣立ちする三十八名の教へ子の爲め過般來 縣内の有力會社や銀行を始め東京方面迄も手を伸ばして極力就職運動に努めて居たが此の校長の熱誠が効を奏し本日迄に平町近在各炭礦會社、

茨城日立鑛山、東京三井物産、三越、高島屋、郡山デパート等計二十六名が決定し残る者僅か

十名こゝなつたので本日更らに平發五時四十分にて郡山方面に運動の爲め出張した

選挙お流れ

委任状を懐中し

投票に顔出さず

庶民金庫の後任總代

第三區改選難か

平庶民金庫第三區(北目、胡摩澤、舊城跡)前總代加藤敬義氏の後任に就いては豫てより渡邊亘、鈴木隆雄の兩派が對立暗闘を續けて居たが去る十四日午後一時より北目町花澤久一郎氏方で是れが選挙を行はんとし

瓦斯倫ホンプが

平窪村に身賣り

三百廿圓で手打ち

既報石城郡平窪村字下平窪消防組第三部では豫てより平消防組第三部のガソリン唧筒讓渡方を交渉中であつ

新舊町長の

更迭を神前に報告

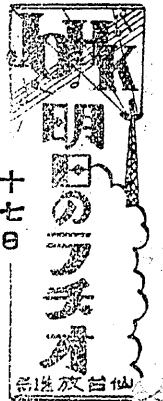
本年の初町會に當つて

既報平町本年の初町會は明十七日午前十一時より町役場會議室に於いて開會され左記議案を附議する筈であるが是れに先立つて伏見、青沼新舊町長の更迭報告祭を午前十時より縣社子鐵倉神社にて執行すると

片倉磐城製糸所長

功勞に依つて榮轉

磐城片倉製糸工場所長辰野貞藏氏は赴任以來同社の業務刷新に多大の成果を収めた功に依つて山形縣東置賜郡高畑町の片倉兩毛製糸工場所長に榮轉する事となり来る十八日赴任するが後任として仙臺片倉工場營業課長山本薫氏が昨十五日平驛着て着任した



明日のラジオ 十七日 報氣天 今晩は北西の風時れ明日は晴れ曇り相半す

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 武勇童話「眞暗街道」江見水隆
後八、〇〇 浪花節「小村壽太郎」吉田奈良千代
後八、五〇 連續講談「淺

明日の部

野三勇士「第四席 一龍齊貞山」
後九、三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組預告
前九、一〇 料理献立「牡

火防組合

聯合組織

役員が内定

平町火防組合聯合會第一回の總會は来る廿日午後一時より丸友ホールに於いて開

自分から進んで

仕事をすすめる人

平第二小學校の生徒が申合せ

平第二小學校の生徒達は此程自治會を開き物事は總べて自分から進んでやる事を申合せ左の様な文面を印刷配附して互ひに注意を涵起する事になった

公金横領収入役に

懲役六ヶ月を求刑

既報公金七十餘圓を横領した双葉郡長塚村収入役柳井

蠅の餌かけ汁」中光三
前一〇、三〇 家庭講座「現代生活と香道の實際」(終)西山宗居
後〇、〇五 俚諺
後二、〇〇 講演「殿米の放送事業に就て」日本放送協會技師長高田善彦
後四、二〇 大相撲春場所状況 國技館より中継
後五、三五 受驗講座「和文英譯」岡田實磨
後六、〇〇 子供の時間「史劇 藤戸先陣」KK
後七、三〇 講演 法學博士松田道一
後八、〇〇 獨唱と管絃樂新交響樂團練習所より中継 獨唱ウハベニヒ 日本放送交響樂團
後八、三〇 歌澤 唄歌澤相撲大夫 三味線歌澤寅右工門
後八、五〇 連續講談「淺野三勇士」終席 一龍齊貞山
後九、三一 滿洲より

七輪から

危く火事

家人が消止む

平町紺屋町木炭商石井鳥松方で昨十五日午後十時頃七輪の残火より發火して正に大事に致らんとしたのを家人が発見して大事に至らず消止めた

平職業紹介所報告

回人を求める方
△女中 二十才迄 尋卒
給料面談(平町某病院)
△魚屋雜夫 二十五才迄 尋卒 月八九圓(小名濱町某)
回職を求める方
△事務員 二十四才 高卒
給料面談(内郷村某)
△雜夫 三十六才 尋卒
給料面談(富山縣某)

常盤日毎

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百四十四席 平手造酒

榮助の最期

榮助は勢力の云ふを聞き
榮『成る程おまへさんの云
ふ事は尤もだ、彈丸や食物
が何程か残つてゐる内に死
にませう』

富『そこでナ、汝はなんと
かして今の内に落ちてくれ
一緒に死んでくれとは云つ
たが老先の長い汝を殺すは
氣の毒だそこでナ、俺の手
紙を持つてこの山を下れ』
榮『ヘエー、おまへさんの
手紙を持つて山を下ればど
うなるね』

富『どうなるものか、汝は
無事で此處を立退くことも
出来る』
榮『その手紙が何の役に立
ちますね、おまへさんの書
いたものを懐中に入れて置
けば八州役人や目明しを追
拂ふまじないになりますか
え』

富『イヤ手紙を持つて山を
下り押へられた時に助五郎
にそれを見せると汝は見逃
してくれるその手紙にはこ
れは俺の子分で鎬木の榮助
といふものだ、俺が八州に
追はれて以來付き添つて世
話をしてくれたい見られる
通りまだ小僧、俺と與に佛
にならうといふを留

下らした、どうぞ榮助だけ
は助けて遣つてくれと憐う
書いて置く、助五郎も俺は
悪いであらうが汝には憎む
處もなからう、又彼奴も關
東では何人か指を折られる
程の俠客だ、汝に繩を掛け



て役人に引渡すやうな事は
なからう、のう榮助、手紙
を持つて早く山を下れ』
榮『それでは親分此處を逃
げろと云ひなされるか』
富『まあさうだナ、俺は汝
が可愛いから此處で殺すこ
とは出来ねえ』
榮助はこれを知ると

と涙を流し
榮『親分、お前さんはわた
くしが可愛いと云ひなされ
が、それは慈悲ではなから
う、イヤ可愛いとは云はせ
ねえこの榮助が眞實可愛い
ならば一緒に死んでくれと
云ひなされるものだよ是か
ら百年生きた所で親分の事
を見すて、命惜さに榮助
は山を下つて助五郎に助け
られたと云はれては、この
上もない恥だ、何故榮助俺
と與に死ぬ、と云つて下さ
らぬ、それともわたくしに
恥をかゝして永くこの世に
憂目を見せたい爲か』

と云はれて勢力が
富『それで榮助われは命に
未練はねえか』
榮『御念には及びません、
この山に入つた時から今日
は死ぬか明日は死ぬかと息
の絶えるを待つてゐまし
た』
富『さう、それほどまで

に決心したならば俺の手に
かけてわれの首を打ち落し
てやる、無慈悲な親分と怨
むなよ、さアそれへ坐れ』
と勢力は脇差を提げてそ
れへ進み寄る、榮助は金比
羅宮の鳥居前にピッタリ坐
り
榮『親分、この首をすつば
りと斬つておくんなさい』
富『われ一人は殺さねえぞ
その首が落ちると共に俺も
此處で死ぬ、一足先に行つ
て待つてゐろ、それにして
も花ならば蕾のわれをこの
山で散らすは惜いものだが
仕方がねえのう、榮助、わ
れが俺の子分になつたは不
運』

云ひつゝ見下す勢力、見
上げる榮助、ピッタリ顔が
合つたが
榮『親分何をしてゐるんだ
早く斬つておくんなさい』
とピッタリと襟元を叩いた
折しも麓に聞えるおびた
しき人聲
富『榮助、覺悟しろ』
サラリと鞘を拂つた、そ
の白刃に映する旭日、榮助
の頸筋へヒラヒラと光を落
した、エイバツツ、濡手
拭をはたくやうな音を立て
たが榮助の首はバツタリ前
に落ちた、勢力はその首を
取上げ金比羅宮の御手洗に
て洗ひさよめ、それを社の
縁に置き
富『榮助、生きてゐるやう
だな、いゝ往生だ、俺も行
くぞ、六道の辻で死出の山
駕仕立てさせ俺が行くの
待つてゐろ』
血に染まつた脇差を洗ひ

夫を鞘に納めて腰に帯び
鳥居の臺座に立掛けて置い
た鐵砲を提げ此處を離れて
松の大樹の下まで来ると、
ワツと云ふ人聲、眞黒にな
つて麓からこれへ押し来て
来る數人、勢力はこれを見て
俺一人押へる爲に、これ
ほどまでに人を出したか、
男としての譽だナ、ドレこ
の娑婆を別れようか、と鐵
砲に彈丸をこめて、松の大
樹に身を凭せ筒口を咽喉に
あて、口火をさし足で引金
をピッタリと押へた。

斯界の權威!!!
大塚の靴
自生編上靴 六圓
學生靴 女學生半靴 五圓
紳士靴 流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七七番

御用命は印刷物の總代理
常盤日毎印刷株式會社
電話三六〇番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
製造賣販
硝子壺
硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

家庭温泉御案内
日本一の靈湯草津の源泉に化學的操作を加へたる
草津**湯の素** 家庭風呂に外用に!
温泉水 冬の保健衛生に最も適
心地よく温まり絶対に湯冷めせず湯上り氣分價千
金一家揃つて居ながらにして温泉氣分を味へ其上
一切の難病を征服する靈湯なり。
冷性の方、しもやけ、火傷、外傷、婦人病、痔
疾、神經痛、リウマチス、皮膚病、
其一ら消毒用として特効あり。
定價 一〇〇瓦入 五五分 五十錢
二五〇瓦入 十二二分 一圓
六〇〇瓦入 凡三十日分 二圓
其他浴場用旅館用大徳用あり、試用分無代進呈
いたします。... 煙突掃除薬も販賣致します。
石炭の御用命と共に是非御使用を御奨めいたします
海峽線 石炭商 **伊藤軍二商店**
平町一丁目電話三四九番
販賣元草津温泉研究所營業部
特約販賣募集 各町村一ヶ所に限る御申越あれ
特に御相談に應ず。

平新川町十九
木村病院
電話一六四番
産婦人科 院長 木村寅次郎
内臟外科 醫學士 内木宗八
整形外科
器泌尿科